

市民活動サポートセンター機能強化 第6回アクションチームでの検討状況

※ 資料2「市民活動サポートセンター機能強化の方向性」の原案についての検討・意見交換を行った。

■サポセンの機能強化について

1 コンセプトについて

- ・機能強化をしていく中で、方向性の確認をする際に立ち戻るのがコンセプト。コンセプトはしっかり決めておくべき。
- ・これまで意見には「市民活動の森」や「corabo forest」というキーワードやキャッチフレーズ的なものは出ていたが、これらは愛称に対応する部分である。（市民一人ひとりのアクションが社会と結びつきながらプラスの方向に動いていくというイメージもある。）

2 コンシェルジュ・人材育成について

- ・コンシェルジュは、いる人すべてに声がけするのではなく、相談機能と連動させるイメージである。
- ・利用者間のマッチング等、協働の部分に限らず、これまでの市民活動支援も含めて、相談機能の強化やスタッフの育成は必要。
- ・この方向性の中に、内部の人材育成の部分がないと発展していかない。

3 企業との関わりについて

- ・企業に勤める方が個人としてまちづくりに関わってほしいというだけでなく、企業自体の社会貢献活動の促進につなげていくということまでやるとしたら、なかなかハードルは高い。
- ・大阪ボランティア協会の「企業市民活動推進センター」のように企業も利用できることを積極的にアピールするべき。
- ・企業の相談を受けるのであれば、つなぎ先のNPOと企業の情報を知っているスタッフの育成や、事例の蓄積等の環境整備が必要。
- ・大企業は意思決定まで時間がかかるので、まずは中小企業や個人事業主で社会貢献に興味のある方々をターゲットにしてみてもどうか。
- ・出会いの場、NPO&企業のような異業種交流会等により連携を図りつつ、機運を高め、スタッフのノウハウを蓄積させながら進めていくイメージがよい。

4 1階の機能について

- ・ 利便性の観点もあるので、受付機能は1階に残しておくべき。
- ・ 交流スペースをただ増設するだけでなく、1階を活用したイベントの実施や情報発信など、何かしら仕掛けていく必要がある。
- ・ 5階を市民活動の拠点として機能を拡充してみてもどうか。
- ・ フリースペースにいかにか人を呼び込むか、つながりを生んでいくかということをもう少し考えていかなければならない。
- ・ 交流スペースの日中の活かし方として、カフェスペースが考えられるが、サポセンの周辺には多数のカフェがあり、コンビニにも囲まれているため、常設での経営は厳しいのではないか。
- ・ 市民活動の支援施設、協働の施設という面では、市民活動団体等のチャレンジ的なカフェが考えられる。
- ・ 人員の問題もあり、就労支援等をやっているところでないとなかなか出店は難しい。人員を手配できる団体はそう多くはない。
- ・ 1階の図書スペースを移設して、空いたスペースで新書やチラシ等タイムリーな情報発信を重点的に行えば、効果的な情報発信となる。

5 その他

- ・ バリアフリーの観点から、2階は固有の機能ではなく、1階でも同じサービスが受けられるような配慮が必要。
- ・ 「ロッカー大」を増やすなど、基本部分の充実も必要。
- ・ 授乳室はあってもいいと思う。
- ・ 施設で待っているのではなく、サポセンから働きかけをしていく必要がある。

■今後の進め方について

- ・ 現在サポセンを利用している方々への説明も大切。
- ・ 多様な主体が集まるようなイベントなどで、今回の計画を紹介できるといい。
- ・ 現在の機能が縮小されると捉えられないように、ポジティブなメッセージを発信できる機会があるといい。